

平成 19 年度中間期（平成 19 年 9 月期）決算に関する主な質疑応答

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクと不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境に関する前提条件の変化等に伴い、予想対比変化する可能性があることにご留意ください。

本日発表致しました平成 19 年度中間期（平成 19 年 9 月期）の業績に関しまして、皆様からお問い合わせの多いご質問への回答を、以下の通り掲載致します。

1. 平成 19 年度中間期 SMBC 業績関連

Q1. 業務純益（一般貸倒引当金繰入前）の前年同期比増減要因について説明して下さい。また、期初予想対比の増減要因についても説明して下さい。

A1. 業務純益（一般貸倒引当金繰入前）は、前年同期比 793 億円増益の 3,909 億円となりました。

これは、金利上昇に備えて債券ポートフォリオの予防的なポジション圧縮を行った昨年度中間期と比べ、国債等債券損益が 554 億円改善したことや、預貸金利鞘の改善を主因として資金利益が前年同期比 337 億円増加したこと等によるものです。

なお、期初予想対比では、内外の金利低下局面をとらえたオペレーションの実施により債券売却益等の市場営業部門収益が増益となった他、夏場以降の円高を背景に、お客さまの外国為替関連のヘッジニーズが高まり関連収益が増えたこと等から、業務純益（一般貸倒引当金繰入前）は 259 億円の増益となっております。

Q2. 経費の状況はどうか？

A2. 平成 19 年度中間期の経費は、前年同期比で 301 億円増加し 3,276 億円となりました。これは、お客さまの利便性向上や競争力強化のために戦略分野への積極的な資源投入を進めたこと等によるもので、経費の水準としてはほぼ期初予想通りです。

Q3. クレジットコストは 1,142 億円と、期初予想比、前年同期比共に増加しましたが、その要因を教えてください。

A3. 平成 19 年度中間期におけるクレジットコストは、期初予想比では、当期においてサブプライムローン関連の引当や、一部の債務者において業況悪化等による想定外の劣化が発生したこと等を要因に約 440 億円の増加となりました。

前年同期には不良債権のオフバランス化や取引先企業の債務者区分改善等に伴う引当金の取崩が発生していたことから、前年同期比では約 800 億円の増加となりました。

Q4. SMFG 連結のクレジットコストの金額を教えてください。また、SMBC 単体との差額の要因について説明してください。

A4. 平成 19 年度中間期における SMFG 連結のクレジットコストは 1,431 億円と、前年同期比では 851 億円の増加となりました。前年同期比での増加は、SMBC 単体での増加が主な要因です。SMFG 連結と SMBC 単体の差額は 289 億円となりましたが、この差額の大半は、みなと銀行、関西アーバン銀行等貸出業務を行う子会社、及びクレジットカード業務、リース業務を営む子会社での与信関係費用によるものです。

Q5. SMBC 単体で、関連会社株式等で減損が発生したこと等により、株式等関係損益が 1,038 億円の損失となった、とのことですが、その内容を教えてください。また、これらの損失は、SMFG 連結決算にどのように反映されるのですか。

A5. 株式相場下落を背景として、関連会社のプロミスその他、オーエムシーカード等、コンシューマーファイナンス業務関連の提携先の株式等において、9 月の時価が取得簿価の一定以上下落したものについて、減損処理を行いました。

主な内訳は、プロミスについては、昨年度に既に投資損失引当金約 780 億円を計上していたことから、ネットで約 460 億円、オーエムシーカードについては、株式と信託受益権の合計で約 440 億円、セントラルファイナンスについては約 60 億円の減損となっております。なお持株会社である SMFG が保有しているセントラルファイナンス株式についても、減損に伴い約 40 億円の株式等関係損失が、SMFG 単体決算に計上されております。

前述した 3 社のうちプロミスとセントラルファイナンスについては、連結決算上の持分法適用会社であるため、単体決算で発生した株式の減損による損失は連結決算上認識されません。

連結決算には、プロミス、セントラルファイナンス等持分法適用会社の当期純利益に、当社持分割合を乗じた金額が「持分法投資損益」として計上されます。

なお、オーエムシーカードにつきましては、平成 19 年度中間期は持分法適用会社ではありません。従って、中間期に SMBC 単体で発生した株式及び信託受益権の減損による損失約 440 億円は、中間期の SMFG 連結決算にそのまま反映されます。

2. SMBC バランスシート関連

Q6. 貸出の増減状況及びその要因について教えてください。

A6. 平成 19 年 9 月末の貸出は、平成 19 年 3 月末対比、国内店（除く特別国際金融取引勘定）で約 1,400 億円の減少、海外店（含む特別国際金融取引勘定）では約 14,100 億円の増加となっており、トータルでは約 12,700 億円の増加となりました。

国内貸出は、国庫向けの貸出が減少したこと等から減少しております。また、海外貸出は、海外での旺盛な資金需要を背景に、格付けの高い企業向けの貸出やプロジェクトファイナンスを主因に増加しております。

なお、金融再生法開示債権残高は、平成 19 年 3 月末比 349 億円増加し、7,736 億円となりました。この結果、平成 19 年 9 月末の不良債権比率は平成 19 年 3 月末比横ばいの 1.2%となっております。

Q7. 自己資本比率規制における自己資本のうち、基本的項目（Tier I）に対する繰延税金資産の比率は、SMFG 連結ベースでいくらですか。

A7. 平成 19 年 9 月末における SMFG 連結の繰延税金資産（繰延税金負債控除後）は、平成 19 年 3 月末対比で 240 億円増加し 8,603 億円となりました。一方、SMFG 連結自己資本の基本的項目（Tier I）の残高は 4 兆 693 億円となり、繰延税金資産（繰延税金負債控除後）の Tier I 資本に対する比率は 21.1%と、平成 19 年 3 月末対比で 0.3%ポイント低下するとともに、自己資本比率計算上の算入上限であります 30%をクリアしております。

3. SMBC 業務戦略関連

Q8. 個人向けコンサルティングビジネスにおける主要商品の実績について教えてください。

A8. 個人のお客さま向けの投信につきましては、平成 19 年 9 月末の預かり資産残高が、平成 19 年 3 月末対比で約 2,000 億円増加し、約 3 兆 6,000 億円となりました。引き続き邦銀ではトップレベルの地位を確保しております。なお、個人年金保険の販売額は、前年同期比約 250 億円減少し約 2,100 億円となりました。平成 14 年 10 月の取扱い開始以来の販売累計額は約 2 兆 4,000 億円となっております。

住宅ローン（自己居住用）の取組実績は、金利上昇に伴う借換えニーズの鈍化や、マンション販売戸数の減少等から前年同期比約 2,000 億円減少し、約 7,000 億円となりました。一方、平成 19 年 9 月末の残高は、19 年度上期中に約 1,700 億円の流動化を実施したことから、平成 19 年 3 月末比約 300 億円減少の約 9 兆 8,900 億円となりました。

Q9. ビジネスセレクトローンの、平成 19 年度中間期の実績、及び今後の見通しについて教えてください。

A9. ビジネスセレクトローンにつきましては、既に一定のボリュームと顧客基盤を確立しており、ポートフォリオの質の向上に重点を置いて取り組んでいることから、平成 19 年度中間期の取組額は、前年同期比約 1,600 億円減少し約 4,700 億円となりました。今後は、引き続きポートフォリオの質の向上に向けた取り組みを進めるとともに、ビジネスセレクトローンを既にご利用いただいているお客さまへの付随サービスの提供にも注力してまいります。

4. 業績予想関連

Q10. 平成 19 年度の SMFG 連結、SMBC 単体の業績予想を教えてください。

A10. SMFG 連結の平成 19 年度業績予想につきましては、経常利益 9,400 億円、当期純利益 5,700 億円を見込んでおります。また、SMBC 単体では、業務純益（一般貸倒引当金繰入前）8,300 億円、当期純利益 3,150 億円を見込んでおります。

Q11. SMFG 連結の中間純利益が期初予想対比約 500 億円減益の 1,706 億円となる一方で、平成 19 年度通期の当期純利益予想が期初予想比 300 億円増益の 5,700 億円となるのはなぜですか。

A11. これは、下期にリース事業子会社の合併に伴い、持分変動差額（特別利益）約 1,000 億円が計上されること等によるものです。持分変動差額の概要につきましては、平成 19 年 10 月 26 日付の当社プレスリリース（「平成 20 年 3 月期業績予想の修正について」）の「参考資料 2」をご覧ください。

Q12. 平成 19 年度の SMBC 単体の業務純益（一般貸倒引当金繰入前）予想について前年比の増減要因を教えてください。

A12. 平成 19 年度の SMBC 単体の業務純益（一般貸倒引当金繰入前）は、18 年度比約 900 億円増益の 8,300 億円を見込んでおります。これは、成長事業領域として強化しております個人向け金融コンサルティングや法人向けソリューション、投資銀行業務を中心として非金利収益が増加することに加え、市場金利の上昇に伴い預貸金収益が増加すること、さらに 18 年度に債券売却損を計上した市場営業部門収益が回復することを主因として、業務粗利益で約 1,500 億円の増益を見込む一方、経費は、成長事業領域の強化のためのシステム投資や拠点網拡充のための投資、及び人的資源強化のための支出を積極化することにより、18 年度比約 600 億円増加の 6,600 億円を見込んでいるためです。

Q13. 平成 19 年度の SMBC 単体のクレジットコスト見込みについて教えてください。

A13. 平成 19 年度の SMBC 単体のクレジットコストにつきましては、過去の貸倒実績率等に基づき計上している引当金について、貸倒実績の減少に伴い 1,000 億円程度の取崩しが下期に見込まれること等から、約 1,100 億円の水準となる見通しです。

5. サブプライム関連

Q14. 米国サブプライムローン関連のエクスポージャーに関して、19年度中間期中に発生した損失額はいくらですか。

A14. 米国サブプライムローン関連のエクスポージャーに関しましては、平成19年11月19日付「平成19年度中間決算説明資料」の22ページ「サブプライムローン関連エクスポージャーと上期業績への影響概要」でお示ししておりますとおり、SMBCでは、RMBS・ABSCDO等の証券化商品につきましては、今中間期中に約40億円の売却損を計上して残高を圧縮した他、9月末の時価が額面の50%を下回ったものを対象に、約170億円の償却を実施しております。一方、ウェアハウジングローン等のうち、担保資産としてサブプライムローン関連資産が含まれる部分については約110億円の引当を実施しております。

Q15. サブプライムローン関連の証券化商品への9月末現在の投資残高、含み損益、並びに最近の評価損益の動向を教えてください。投資以外の融資等のエクスポージャーについても教えてください。

A15. RMBS・ABSCDO等の証券化商品の残高は、償却後の簿価で約700億円、9月末時点の評価損は約180億円となっております。一方、これを含む、SMBC単体の「その他有価証券」全体の評価損益は、9月末時点で1兆5,177億円の評価益です。なお、10月に入り格付会社による大量格下げ等の発表もあったことからRMBS・ABSCDO等の証券化商品の時価は下落傾向が続いており、平成19年11月8日時点の評価損益は、9月末比約320億円悪化の、約500億円の評価損となっております。一方、「その他有価証券」全体の10月末の評価損益は、約1兆6,000億円の含み益となっております。

米国拠点で行っているウェアハウジングローン等の、証券化商品を担保とする融資業務（9月末の残高は約400億円）に関しては、サブプライムローン関連資産が担保となっている部分（約250億円）について、約110億円の引当処理を実施しております。なお、担保資産となっているサブプライムローン関連資産の、平成19年11月8日時点の評価損は9月末比約50億円程度拡大しております。

Q16. サブプライム関連の証券化商品に関して、SMBC では、どのような方法で評価しているのですか。

A16. SMBC においては、サブプライム関連の証券化商品は、ほぼ全てを時価のある「その他有価証券」に区分し、金融商品会計に関する実務指針に則って時価による評価・査定を行っています。なお時価には、証券会社によって提示された価格を使用しております。

Q17. いわゆる「SIV(Structured Investment Vehicle)」関連の投資残高はありますか。

A17. SMFG では、いわゆる SIV は保有しておりません。また、SIV が発行する有価証券に対する投資も行っておりません。

6. 提携戦略等

Q18. オーエムシーカードとのクレジットカード事業における戦略提携について教えてください。

A18. 本件に関する詳細につきましては、下記プレスリリースをご参照ください。
http://www.smfg.co.jp/news/j200076_01.html

(ご参考:「平成19年度中間決算説明資料」20ページ)

24. 平成19年度業績予想

株式会社三井住友フィナンシャルグループ

【単体】 (金額単位 億円)

	19年度予想		18年度実績
		18年度比	
営業収益	1,100	△ 2,665	3,765
営業利益	1,050	△ 2,679	3,729
経常利益	900	△ 2,745	3,645
当期純利益	800	△ 2,836	3,636

1株当たり配当予想 (金額単位 円)

	19年度		18年度実績 年間
	中間	年間(予想)	
普通株式	5,000	10,000	7,000
第1~12回第四種優先株式	67,500	135,000	135,000
第1回第六種優先株式	44,250	88,500	88,500

<ご参考> (金額単位 億円)

配当金総額	448	896	666
-------	-----	-----	-----

【連結】 (金額単位 億円)

	19年度予想		18年度実績
		18年度比	
経常収益	43,000	3,987	39,013
経常利益	9,400	1,414	7,986
当期純利益	5,700	1,286	4,414

<ご参考>

株式会社三井住友銀行

【単体】 (金額単位 億円)

	19年度予想		18年度実績
		18年度比	
業務粗利益	14,900	1,455	13,445
経費	△ 6,600	△ 561	△ 6,039
業務純益(一般貸倒引当金繰入前)	8,300	894	7,406
経常利益	6,000	267	5,733
当期純利益	3,150	△ 7	3,157

与信関係費用	△ 1,100	△ 205	△ 895
--------	---------	-------	-------

(注) 一般貸倒引当金繰入+臨時費用に含まれる不良債権処理額+特別利益に含まれる償却債権取立益